



1月の花： シンビジューム

事務所便り

令和4年1月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯：070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

あげましておめでとうございます。
ご家族おそろいで良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
今年こそは新型コロナを制圧して、健康で明るい1年となりますよう祈念しております。

今年寅年～寅(とら)の話～

2022 年は、寅(虎)年です。虎は、シベリア南部、中国東北部からインド、インドネシアの島々、朝鮮半島に棲息していますが、日本には棲息していません。古くから、その毛皮は敷物などとして珍重されてきました。「日本書紀」には、朱鳥元年(西



暦 686 年)4 月頃、新羅の使者による天皇への献上品のなかに、馬や犬、金銀、金の器、織物などとともに虎の皮がもたらされたと記されています。虎については、有名な話があります。昔、一匹の虎が百獣を食べ尽くそうと考えました。最後に一匹の狐を捕まえて食べようとしたところ、狐は「神が私を百獣の王にしようとしている。もし虎が私を食べるなら、神の命令に逆らうことになる。嘘だと思えば私についてこい。」と威張って言いました。虎はまさかと思ひ、狐のあとを付いていくと、他の動物は恐れて逃げだしました。虎は狐に感心していましたが、「本当は、自分を恐れて逃げた」とは気づきませんでした。この話からできたことわざが「**虎の威を借る狐**」です。このように虎は強い動物の代表のように扱われていますが、単純に「強い動物」であるだけではありません。「**虎の子**」という言葉がありますが、虎は、自分の子どもを可愛がって、大切に育てることから、「大切に育てて手元から離さないもの」という意味で使われます。このことから、虎は強いだけでなく、子ども思いで情け深さも兼ね備えている動物として、

昔から考えられていたことが分かります。わが国の寅年の歴史を振り返りますと、豊臣秀吉天下統一(1590)、天明の大飢饉(1782)、日米和親条約締結(1854)、薩長同盟成立(1866)、第一回総選挙(1890)などの出来事がありました。寅年生まれの著名人としては、横溝正史、与謝野晶子、吉田茂、吉野作造、レディー・ガガ などがいます。陰陽五行によると、2022 年は「壬寅(みずのえ・とら)」にあたります。「壬寅」は「新たな局面に向け、一致団結する年」という意味があります。2022 年も、新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き厳しい環境下にありますが、お互いに協力・連携し合うことで、苦しい時期を乗り越えましょう。ウィズコロナ、アフターコロナの新時代に向け、「寅亮」し、「龍虎の勢いで千里を駆け巡る」で飛躍する年としたいものです。

2021 年の回顧と 2022 年の展望

2021 年は新型コロナウイルスの世界的蔓延のもとに政治・経済・社会・文化等あらゆる分野で停滞を余儀なく強制された年であった。

国際政治の分野においては米中新冷戦と呼ばれるように陰悪化の道を駆け下りていった。

対外環境が厳しさを増す中、自ら唱導する「国際秩序」の実現を目指す中国は、バイデン政権発足後も対米関係の大幅改善は見通せず、人権問題をめぐり欧州 諸国等との対立も表面化した。



中国は、バイデン大統領就任を受けて、「米国側が我々に歩み寄ることを期待

している」と表明する(1月、中国外交部)など、米国 新政権下での米中関係の改善に対する期待感をうかがわせ、バイデン政権も中国を「敵対的で競争的だが、協力的側面もある」(1月、ブリンケン米国国務長官)と位置付けた。しかし、米

国が新疆ウイグル自治区での人権侵害に対して「ジェノサイド」との認識を改めて示した(1月)ことや、香港情勢をめぐり中国及び香港当局者24人を香港の自治を侵害した人物と指定した(3月)ことなどに中国が反発し、基本的人権や民主主義などの普遍的価値をめぐり、米中間の摩擦が高まった。こうした中、米国アラスカ州で実施された米中外交トップ会談(3月)では、楊ヨウケッチ 潔箴政治局委員・中央外事工作委員 会弁公室主任が冒頭で、「米国には上から目線で中国に物を言う資格はない」と発言するなど、1時間以上にわたり非難の応酬が繰り広げられたとされ、両国間の溝が鮮明になった。さらに、中国は、香港情勢を背景とする米国の制裁措置に対しても、「反外国制裁法」に基づき米国の関連する個人・組織に制裁を科すことを発表する(7月)など、米国の圧力に断固として対抗する姿勢を示した。また、バイデン政権が協力可能な分野では中国とも協力するとの方針を示す中、中国は、気候変動問題などにおける協力の意志を示しつつも、「協力には良好な二国間関係の雰囲気が必要条件としなければならない」(7月)との姿勢を堅持した。さらに、中国は、対外環境が厳しさを増す中、自ら唱導する「国際秩序」の実現を目指す中国バイデン政権発足後も対米関係の大幅改善は見通せず、人権問題をめぐり欧州諸国等との対立も表面化した。

中国は7月26日シャーマン米国務副長官との会談で、関係改善の前提条件として、対中制裁措置の撤回などを盛り込んだ「二つのリスト」を米国側に強圧的に提示し、関係改善には米国側の歩み寄りが必要との認識を示しており、米中関係が大幅な緩和に向かう見通しは依然として立っていない。

欧州諸国等との間でも、ウイグルの人権問題や台湾海峡情勢などをめぐる対立が表面化した。とりわけウイグル問題については、欧州連合(EU)が米国などと足並みをそろえる形で「六・四天安門事件」(平成元年<1989年>)以来となる対中制裁を発動した(3月)。

このよう対中関係は悪化に一途をたどった。

2022年においても戦狼外交を展開する中国の姿勢は強硬であり、共産党大会の開催を控えて

おり強硬路線は継続されるものと見積られる。次表は今年(2022年)の中国の動向に影響を及ぼす5つの注目点である。

2022年の中国経済5つの注目点		
1	全人代で発表予定の成長率目標	成長率目標が5%を下回り、財政赤字(GDP比)が3%を上回ると株価にマイナス
2	不動産バブルの行方	不動産企業の経営悪化でデフォルト(債務不履行)が広がれば株価急落も
3	共産党大会の人事	習近平氏の終身国家主席就任は確実視。首相以下の人事が国際関係に影響か
4	外交問題の先行き	引き続き警戒感に残るものの、米中共に重大イベントを控えるため対立先鋭は回避か
5	コロナの感染動向	ゼロコロナ政策継続下での感染再拡大は景気下押し要因に

米中の対立点は引き続きウイグルの人権問題、北京オリンピックの外交的不参加問題、台湾問題等が大きく影響するものと見積られる。

●「トゥキディデスの罠」に警鐘

—古代ギリシャの歴史家トゥキディデスが説いたアテネとスパルタのペロポネソス戦争を例に、歴史上、新興国の成長とともに既存の覇権国との力に力関係が崩れた場合に戦争が起こりやすくなる「トゥキディデスの罠」に警鐘を鳴らしている。

トゥキディデスが説いているように、古代ギリシャのアテネ、100年前のドイツ、そして現在の中国のような新興国が、スパルタ、大英帝国、そしてアメリカのような覇権国に取って代わるような脅威となると、結果としていちばん頻繁に起こるのは戦争だ。この500年間で新興国が覇権国に挑んだ例は16回あった。うち12回で戦争が起きた。

トゥキディデスが指摘するライバル関係では、誤解が大きくなり、誤算が何倍にもなり、事態悪化の危険性が増幅する。ちょっとしたきっかけでも、報復の悪循環を引き起こす。その結果、どちらも望んでいない破滅的な戦争へと両国を引きずり込むことがある。

米中かにとって戦争の引き金となる最も高い可能性は台湾だ。もし台湾が独立しようと決意し、挑発と考えた中国が武力によって台湾を併合しようとするなら、アメリカはどのように対応するだろうか？ また日本はどのように対応するだろうか？

2022年の大きな危機である。